

安全データシート

改訂日: 2022年9月8日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

ハイドロサルファイトナトリウム
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
CB0132

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

自己発熱性化学品: 区分1
急性毒性(経口): 区分5
皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分2A-2B
水生環境有害性 短期(急性): 区分3
水生環境有害性 長期(慢性): 区分3

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
自己発熱、火災の可能性
飲み込むと有害のおそれ
皮膚刺激
強い眼刺激
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
涼しい所に置き、日光を避けること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していても容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
積荷、パレット間に空気のすきまをあけること。
他の物質から離して保管すること。
冷所で保管すること。
【廃棄】
内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業に依頼して廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名
慣用名又は別名

混合物
次亜硫酸ナトリウム, ハイドロサルファイト
亜ジチオン酸ナトリウム, ハイドロサルファイトナトリウム
次亜硫酸ナトリウム 二亜硫酸ナトリウム 炭酸ナトリウム
Na₂S₂O₄ Na₂S₂O₅ Na₂CO₃
CAS RN: 7775-14-6 7681-57-4 497-19-8
85%以上 9%未満 6%未満
(1)-504/公表 (1)-502/公表 (1)-164/公表
該当情報なし

成分

化学式

化学物質を特定できる一般的な番号

濃度又は濃度範囲

官報公示整理番号(化審法/安衛法)

その他

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける。
製品に触れた部分を水で洗い流した後石鹸を用いて十分に洗浄する。
痛み、違和感を感じる場合は、直ちに医師の手当てを受ける。

眼に入った場合

水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していても容易に外せる場合は外して、その後も洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師の手当てを受ける。
口をすすぐこと。
直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置	<p>大量の水、乾燥砂、粉末消火剤、ソーダ灰、石灰 少量の水、泡消火薬剤、二酸化炭素 引火性が強く爆発することがある。 フレアー燃焼効果により速やかに燃焼するおそれがある。 加熱されたり火炎に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。 消火後再び発火するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 火災のおそれ</p>
<p>適切な消火剤 使ってはならない消火剤 火災時の特有の危険有害性</p>	<p>火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。 危険でなければ火災区域から容器を移動させ乾燥状態を保つ。 移動後、容器が異常に熱いときは、分解反応中と推測されるので、容器を開封してはならない。また、冷却のため水をかけてもならない。この場合は、乾燥砂等で覆い、窒息消火する。水を入れた大きな貯槽等がある場合のみ、その中に容器ごと沈めてもよい。 移動不可能な場合、容器及び周囲に大量の水を散水して冷却する。 消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。 容器内に水を入れてはいけない。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
特有の消火方法	
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	<p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 環境中に放出してはならない。 漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、プラスチック容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。 危険でなければ漏れを止める。 乾燥した土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。</p>
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	
<p>環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	
7. 取扱い及び保管上の注意	<p>吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 局所排気装置または全体換気装置を使用する。 飲み込みを避けること。 眼に入れないこと。 指定された量以下に区分けし積み重ねないこと。 冷所に保管し、日光を遮断すること。 「10. 安定性及び反応性」を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はり可不燃材料で作ること 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 指定する量以上の大量品は、指定する温度を超えない温度で保管すること。 冷所に保管し、日光を遮断すること。 他の物質から離して保管すること。 消防法又は国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>
<p>取扱い 技術的対策(局所排気、全体換気等)</p>	
安全取扱注意事項	
<p>接触回避 衛生対策</p>	
<p>保管 安全な保管条件</p>	
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	<p>未設定 未設定 TWA 5mg/m³ (二亜硫酸ナトリウム) この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。</p> <p>防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。 ゴム手袋を着用する。 ゴーグルを着用する。 作業衣を着用する。</p>
<p>許容濃度等 管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH 設備対策</p>	
<p>保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	
9. 物理的及び化学的性質	粉末
物理状態	

色	白色
臭い	無臭又は二酸化硫黄のような弱い刺激臭
融点/凝固点	52°C(分解)(融点/凝固点)
沸点又は初留点及び沸点範囲	100°C(分解)(沸点又は初留点及び沸点範囲)
燃焼性	該当情報なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし
引火点	>100°C (o.c.)
自然発火温度	該当情報なし
分解温度	190°C
pH	7~9 [20°C, 50g/L, 次亜硫酸ナトリウムとして]
動粘性率(粘度)	該当情報なし
溶解度	約25%水溶液になるまで溶解し、その溶液は徐々に分解する。 250g/L [次亜硫酸ナトリウムとして]
n-オクタノール/水分配係数	log Pow <-4.7
蒸気圧	該当情報なし
密度及び/又は相対密度	2.189 (2.5g/cm ³ [20°C, 次亜硫酸ナトリウムとして])
相対ガス密度	該当情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当しない
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	湿気、空気により次第に亜硫酸塩及び硫酸塩に変化する。 80°C以上に熱すると自己分解する。 水溶液は空気により酸化されて次第に混濁する。 熱、火えんに触れると燃焼しうる。燃焼性
危険有害反応可能性	水又は、塩化ナトリウムに接触すると発火する。 酸化剤と反応する。 酸と接触すると、分解して有毒なガスを生じる。 水、水分および湿った空気と接触すると、自然発火温度
避けるべき条件	熱、水
混触危険物質	酸類、酸化剤、熱湯、亜塩素酸ナトリウム、塩化ナトリウム
危険有害な分解生成物	激しく分解して毒性のSO _x 、Na ₂ Oのガスを発する。
11. 有害性情報	
急性毒性	経口：ラットLD ₅₀ 値：2500mg/kg(IUCLID, 2000)に基づき、区分5とした。 経皮：該当情報なし 吸入：該当情報なし (粉塵)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いた試験で皮膚刺激性は認められなかったとの記述はあるが、HSFS(2000)にヒトの皮膚を重度に刺激する可能性を示唆する記述があることから、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた試験で刺激性が認められたとの記述から、区分2A-2Bとした。回復性が不明であることから細区分はできない。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器：喘息様アレルギーを引き起こす可能性を示唆する記述があるが、具体的な症例の報告はなく、データ不足のため分類できない。 皮膚：皮膚アレルギーを引き起こす可能性を示唆する記述があるが、具体的な症例の報告はなく、データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	in vitro 復帰突然変異試験データのみ情報では、データ不足のため分類できない。
発がん性	該当情報なし
生殖毒性	該当情報なし
特定標的臓器毒性(単回暴露)	該当情報なし
特定標的臓器毒性(反復暴露)	該当情報なし
誤えん有害性	該当情報なし
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期：魚類(コイ)96時間LC50 =63.2 mg/L (OECD SIDS: 2004)であることから、(急性)区分3とした。 長期：慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき環境中動態が不明であるが、藻類(Scenedesmus subspicatus)の72時間NOEC(生長速度) = 62.5 mg/L (OECD SIDS: 2004)であることから、区分外となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき環境中動態が不明であるが、魚類(コイ)96時間LC50 =63.2 mg/L (OECD SIDS: 2004)であることから、区分3となる。
残留性・分解性	該当情報なし
生体蓄積性	該当情報なし
土壌中の移動性	該当情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	1384
品名(国連輸送名)	SODIUM DITHIONITE
国連分類	4.2
容器等級	II
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	該当情報なし。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	135

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	危険物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[二亜硫酸ナトリウム] 危険性又は有害性を調査すべき物[二亜硫酸ナトリウム] 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[亜二チオン酸ナトリウム(別名ハイドロサルファイト)] [施行令別表9](2026年(令和8年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物[亜二チオン酸ナトリウム(別名ハイドロサルファイト)](2026年(令和8年4月1日)以降) 危険物・発火性の物
船舶安全法	燃焼性
航空法	燃焼性

16. その他の情報

参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) 国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所HP) 化学品安全管理データブック(化学工業日報社) 第六版食品添加物公定書解説書(廣川書店)
------	--

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。